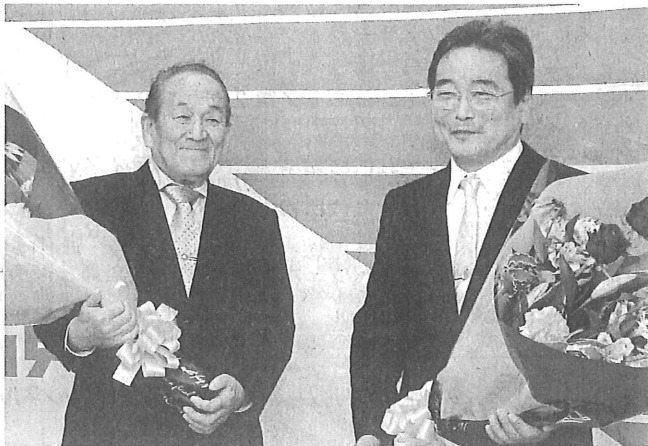


地域の健康 今後を守る

大森、石川さん 医療功労賞表彰



花束を受け取り、笑顔を見せる大森さん(左)と石川さん(読売新聞高松総局で)

地域医療や福祉の向上に長年貢献してきた人をたたえる「第46回医療功労賞」(読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、損保ジャパン日本興亜協賛)の県表彰が8日、読

売新聞高松総局で行われた。土庄町の大森外科医院院長大森茂さん(84)、理学療法士で観音寺市のデイサービスいしかわ代表石川正幸さん(63)の2人に表彰状などが贈られた。

開業医として地域の暮らしを支える大森さんは、带状疱疹はしかに関する小豆島の疫学調査に協力。予防接種の実施による高齢者の発症率低減につながる成果を残した。デイサービス施設を経営する石川さんは、肢体不自由児の支援に注力し、使う立場から電動車いすの改良に実績を上げた。

式では、県の高木康博健康福祉部長が「表彰は、医療の充実発展への貢献、功績が高く評価された結果。豊かな見識を生かし、今後も地域医療の推進と後進の育成に尽力していただきたい」と祝辞を述べた。

表彰状や盾を受け取った大森さんは「地域の患者さんと話すのは、互いの楽しみにもなっている。島では開業医が減っており、必要とされている間は簡単に辞

められない」。石川さんは「デイサービスでは職員の配置を増やすことで、利用者との信頼関係が深まった。『生きていてよかった』と感じてもらえるようバックアップを続けたい」と話した。